

My Sonic Signature Gold の活用(26)
—アナログと他メディアの比較試聴(26) —

1. はじめに

今回取り上げるのは、リヒャルト・シュトラウスのツアラトウストラかく語りきです。

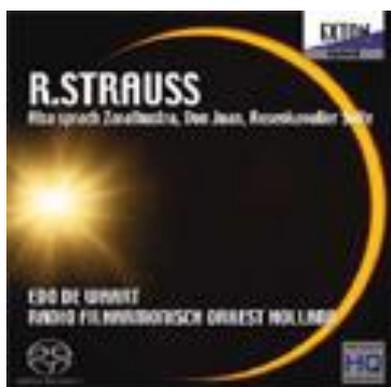
2. My Sonic Signature Gold の試聴結果

前報(13)に述べた方法で試聴していきます。

【アナログ盤】

EXTON OVJL-00001 エド・デ・ワールト指揮オランダ放送フィル

リヒャルト・シュトラウス ツアラトウストラかく語りき



FONTANA PL-1023 ハイティンク指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

リヒャルト・シュトラウス ツアラトウストラかく語りき

Youtube URL

<https://www.youtube.com/watch?v=vOYImzSICU0>

【BPODCH】

2012.4.28 収録 ドウダメル指揮ベルリンフィル

リヒャルト・シュトラウス ツアラトウストラかく語りき



2014.10.18 収録 ネルソンス指揮ベルリンフィル



3. My Sonic Signature Gold の試聴結果

エド・デ・ワールト指揮のアナログ盤は、日本のエンジニアによる 2005 年のスタジオ録音であり、おそらくはデジタル録音ではないかと推測されます。そのためか、明晰ではあるものの、エッジが効きすぎて、アナログ盤としてはドライな音になっています。

ハイティンク指揮のアナログ盤は、録音、演奏ともよく、オルガンの最低域は苦しいものの量感はたっぷりあります。

ドウダメル指揮の BPODCH は、若いドウダメルが張り切って渾身の力を込めて指揮しています。

ネルソンス指揮の BPODCH は、これも豪快なネルソンスの指揮で色彩感あふれるオーケストレーションが展開されます。

これら二つの BPODCH は、冒頭のオルガンの持続音や低弦の響きが明晰に捉えられています。

4. まとめ

アナログでは、ハイティンク指揮のアナログ盤が、BPODCH ではネルソンス指揮

の BPODCH が録音も良く、演奏に聴きごたえがあります。

以上